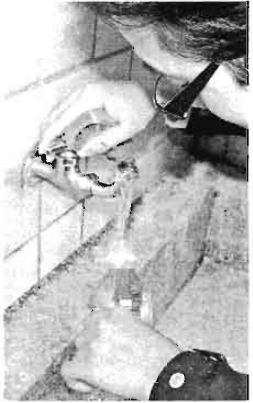


「弁当」「水筒」の次はこれ 「水道男子」急増中

不況やエコブームで、弁当を持ち歩く「水道男子」が増殖中だが、さらに一歩先をいく「水道男子」が登場した。ペットボトルなどの飲料代まで節約し、水道水を飲む

欧州最大の浄水器メーカー、BWT社の調査によると、日本の独身サラリーマンの85%が毎日少なくとも1本のドリンクを購入し、44%は飲料代に毎日150円以上かけているという。中には1000円以上費やす人もいるが、回答者の大半は可能ならば飲料代を「貯金したい」と考えているそう



同時に橋本氏は、水道水の質の向上も「水道男子」増加の背景にあると指摘する。

「安全でおいしい水プロシエクト」を2004年から行っている東京都水道局では、1992年からオゾンと活性炭を使って二オイの元になる物質をとる高度浄水処理システムを導入。水質が良くなかった利根川水系の金町、三郷、朝霞浄水場

ペットボトルに水道水を入れる姿には悲哀が漂うが、
では46・6%に達し、評価は確実に高まっていく。

年々おいしく

世界的にもペットボトルから水道水へという流れがある。米サンフランシスコでは、エコの観点からペットボトル飲料の購入を禁止、オーストラリアのパンダヌーンでは水源確保のためにボトル水の販売を禁止した。

「安全でおいしい水プロシエクト」を2004年から行っている東京都水道局では、1992年からオゾンと活性炭を使って二オイの元になる物質をとる高度浄水処理システムを導入。水質が良くなかった利根川水系の金町、三郷、朝霞浄水場

「水道男子」の中には、欧米の家庭で普及している卓上型ペット浄水器をデスクに持ち込む人もいます。試してみたい？

「世界の水が奪われる」といわれる。ペットボトル飲料にお金を出すのをめにする。水道水でいいやと考